

郵趣振興協会 活動報告（21）

2022 年度 第 1 Q

2022 年 3 月 4 日～2022 年 6 月 13 日

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

特定非営利活動法人 郵趣振興協会(以下「当協会」と略す。)は、その活動について広く伝えるため、3ヶ月に一度レポートを発行し、電子メール等で正会員・賛助会員にお伝えすると共に、無料でご掲載いただける雑誌媒体に同一内容を提供しております。

全国切手展「スタンペックス ジャパン2022」を開催

全国切手展「スタンペックス ジャパン2022」ですが、予定されていた3/26-28の開催を無事終えることができましたので、ご報告申し上げます。

切手展自体の事業規模は717,847円でした。今回の開催にあたっては、持続的な展覧会開催のため、切手コレクション展示パネルの設営・撤去に関する往復の費用を当協会が負担することに加えて、昨年不十分だった、実行委員の実働に対する謝礼の予算を確保することを方針としました。

この為、「スタンペックス ジャパン2021」の事業規模528,550円に比較すると19万円弱の規模拡大がありました。当協会予算からの拠出金額を予算30万円に増額して臨みましたが、若干予算を越えましたが、実績334,847円(116%)とほぼ予算内に収めることができました。本展覧会を会費・寄付金でご支援くださいました正会員・賛助会員の皆様に感謝申し上げます。なお、詳細の収支は下表の通りです。

収入	振興協会より拠出	334,847	支出	目録等外注	200,000
	出品料	173,000		印刷製本費	24,681
	寄付	10,000		広告宣伝費	50,000
	プレミアムスポンサー費	200,000		旅費交通費	17,890
合計	717,847	通信運搬費		6,410	
				消耗品費	8,866
				撤去	154,000
				副賞費用	42,000
				謝礼審査員	45,000
				謝礼実行委員	169,000
			合計	717,847	

なお、競争展覧会の運営、クリティークの提供に加えて、ご来場の一般客に対する理解の促進を図る仕組みを導入したのが今回の特徴の一つです。具体的には(1)フィラテリーおよび国際切手展の理解を促進する導入ムービーをエンドレスで展覧会場入り口で流す。(2)各作品の概説の音声ガイドの提供(QRコードにて)を導入し、手応えを感じました。

なお、全国切手展「スタンペックスジャパン2023」は、来年3月ないし4月の開催に向けて、主催者で日程を調整中です。開催の詳細並びに出品受付については、今夏には発表できる予定です。正会員・賛助会員の皆様には、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第5期決算を承認

当協会の第5期（2021年度：2021/4/1-2022/3/31）決算がまとまり、第6期（2022年度：2022/4/1-2023/3/31）事業計画・予算と共に、4月28日の総会で議決権をもつ正会員の投票で承認されました。

活動計算書（商法上の法人における損益計算書に当たります）によれば、第5期の経常収益は1,378,008円、経常費用は1,797,833円で、単年度で見ると419,825円の赤字となります。

なお、この原因は、年一回開催している、全国切手展「スタンペックスジャパン」の収支に関する会計上の計上年度が、2021年4月開催分と2022年3月開催分共に2021年度になってしまうテクニカルな要因で、同事業に対する協会からの支出は一年に一度30万円程度であることは変わらないことを補足説明しました。

また、協会の事業進捗にあたり、事務作業をお手伝い下さった方に対して、ボランティア評価費用という勘定項目で、以前より謝礼支払いを行う規定を定めて運用して参りましたが、前期までは、その適用が100%例外なくとは行きませんでした。しかし、専従職員のいない当協会の場合、このようなお手伝いをしてくださる方の存在は大きく、将来に渡り大切にしていこうという理事会の考えのもと、謝礼支払いの運用を第5期から例外なく実施しましたので、この点の決算数字は前期よりも大きくなりました。

以上が概略となりますが、詳細の資料（総会招集資料および付属会計資料）につきましては、当協会のHPに2022年4月15日付で掲載しているほか、監督機関である東京都庁に提出中で、後日都庁のホームページで公開されます。

第6期事業計画・予算を承認

4月28日の総会では、第二号議案として、「当期事業計画並びに予算の承認」も議題として提出され、議決権を持つ正会員の投票で承認されました。第6期 経常収益 予算は、1,114,008円、同経常費用は、1,182,000円で、赤字分は前年繰越金で補っています。

全国切手展「スタンペックスジャパン」開催に関する収支計上が1回だけになる為、第5期に比べて収支規模が縮小し、正常な形に戻ります。オンラインビデオを活用した郵趣振興に関する費用およびフィルタリー必需品サプライ事業に関する支出を見直し、正会員・賛助会員の皆様から頂いた会費・寄付金の有効活用をはかって参ります。

なお、事業計画については下記の通りであり予算とともに承認されました。

第6期 事業計画

前期より実際の開催が開始された全国切手展「スタンペックスジャパン」は、共催の郵政博物館の企画展示室の都合により、年度中に2度の開催となった為、前期に多くのノウハウを蓄積することができた。

また、クラウド展示の基本サービス化を行った「郵博特別切手コレクション展」や、ビデオ会議サービスの郵趣への活用は、定期的な開催・技術協力により、当協会の基本注力分野として確立することができた。

これをうけて第6期の活動は、上記の3事業の継続・発展を念頭に置き、さらに30年後の郵趣人口の確保の観点から以下に示すものを検討する。

1. 世界の郵趣鑑定のあり方の調査
2. 他団体と組んで、郵政博物館で展覧会を開催する事例の実施を検討

各種事業の進捗について

当協会は5つの事業「エキシビション事業」「フィラテリー必需品サプライ事業」「リサーチ及び研究推進事業」「フィラテリックPR事業」「次世代育成事業」を行っています。当クオーターにおける、各事業及び総務ほかの進捗をご報告いたします。

エキシビション事業

スタンペックスジャパン2022実行委員会（横山裕三 実行委員会事務局長）の活動

スタンペックスジャパン2022審査委員会（佐藤浩一 審査委員長）の活動

郵博 特別切手コレクション展（2022年度）の開催。

5/7-6/6 沖縄復帰50周年記念切手展（博物館展示は、5/7-15のみ）

フィラテリー必需品サプライ事業

「ヒンジ・カバー用コーナー・透明マウント」の3品目を最重要対象品とした、Amazon.co.jpにおける供給体制を維持する為、2017年度より随意契約の形で、無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社に委託してきました。しかしながら、2021年度と同サービスの利用は少なく、支出見直しの一環で、委託継続の中止を決定し、同社に通達しました。

リサーチ及び研究推進事業

リーフ作成雛形提供事業の準備を継続中

フィラテリックPR事業

ウェブサイトにおける情報発信を実施（3-5月で27件。対前四半期+69%）

オンライン郵趣例会 振興プロジェクト（斎享リーダー）の活動の継続

(1) 当協会が、技術および宣伝協力した、オンライン郵趣例会の開催

日本切手研究会 6回

外国切手研究会 6回

昭和切手研究会 3回

南方占領地切手コレクターズクラブ 3回

(2) オンライン郵趣例会を開催する切手サークルに対する集客支援方法の提供

当協会ホームページにおける、例会報告コーナーの提供

外国切手研究会 4回

南方占領地切手コレクターズクラブ 2回

総務ほか

昨年7月の総会を受けた、登記変更手続きの完了

4月の総会を受けた、第5期決算の都庁への報告（都庁対応中）

日常的な経理業務、問合せ業務への対応

（報告者：代表理事 吉田敬）